

一般社団法人日本熱帯医学会
2022 年度第 1 回評議員会議事録(案)

日 時:2021 年 11 月 4 日(木)11:45~13:15

場 所:オンライン会議

出席評議員数 総評議員 91 名中、出席評議員 77 名(本人出席 47 名 委任状出席 30 名)

列席者:名誉会員 1 名、功労会員 2 名、学生会 1 名、事務局 1 名

- ・ 評議員会開催に先駆け、物故者 4 名(功労会員-伊藤洋一氏、功労会員-長瀬啓三氏、名誉会員-大友弘士氏、功労会員-伊藤亮氏)について黙祷をし、ご冥福をお祈りした。
- ・ 評議員の過半数の出席により 2022 年度第 1 回評議員会が成立し、金子修理事長が議長となり以下の審議等を行った。
- ・ 議事録署名人に、門司和彦評議員と狩野繁之評議員を指名した。

【報告事項】

(1) 2021 年度事業報告

- ・ 濱野真二郎庶務担当理事より、2020 年 10 月から 2021 年 9 月までの事業が報告された。
- ・ 議事録については、学会 HP に追って掲載されることが報告された。
- ・ 金子修理事長より、各賞の選考委員会の結果が報告された。

学会賞:西園晃氏(大分大学・医学部)

相川正道賞:河津信一郎氏(帯広畜産大学・原虫病センター)

研究奨励賞:日達真美氏(国連世界食糧計画セネガル事務所)

女性賞:竹内理恵氏(琉球大学・医学部)

(2) 2021 年度庶務・編集報告

- ・ 濱野真二郎庶務担当理事より、2021 年 10 月 15 日現在の会員会員数は、779 名と報告された。(特別会員 8 名、名誉会員 25 名、功労会員 35 名、評議員 91 名、正会員 319 名、学生会員 188 名、在外会員 95 名、ポスдок会員 15 名)(団体会員 2 団体、賛助会員 1 団体)
- ・ 学生会へへの入会者により、学生会員が大幅に増加した。
- ・ 有吉紅也編集担当理事より、投稿数、掲載数ともに順調に伸びていると報告された。APC デポジット残高には余裕があるので、学会員の投稿をお願いしたい。
- ・ 橋爪真弘編集長より、BMC レポートの説明があった。投稿から 1 回目の査読結果決定まで 19 日で、アクセプトからオンライン出版まで 17 日という平均値。サイトスコアが 2.5。(過去 4 年分)来年の 6 月頃には、IF の申請結果が分かる予定である。国別投稿数ではエチオピアが、アクセプト数では、日本がトップである。エチオピアが投稿数トップであるのは掲載料が免除であることが大きいと考えられる。

(3) 第 62 回大会準備状況報告

- ・ 押谷仁大会長より、本年度大会の準備状況について報告された。200 人近く登録されているが、正会員の登録が少ないので、会計的に厳しいとの報告があった。

- ・ 狩野繁之評議員より、オンライン開催とリアル開催では、会計的にはどちらが高いかという質問があり、押谷仁大会長より、オンラインの方が高いという回答があった。

(4) 第 63 回大会準備報告

- ・ 西園晃次期大会長より、来年度はリアル開催の予定であるとの報告があった。
- ・ 2022 年 10 月 8 日(土)～9 日(日)、別府ビーコンプラザでの開催を予定。第 26 回日本渡航医学会学術集会との合同開催である。
- ・ テーマ: Suffering, Creativity and Innovation: Pathways to Global Health in COVID-19 Era and Beyond

(5) 各委員会報告

- ・ 日本医学会評議員: 金子修理事長より、日本医学会創立 120 周年記念誌の日本熱帯医学会の項目を狩野前理事長と金子修現理事長で執筆し提出。今後、2021 年 12 月 5 日、令和 3 年度女性医師支援担当者連絡会(日本医師会女性医師支援センター、日本医学会連合 共催)に女性医師会員(長崎大熱研内科)参加予定、2022 年 2 月頃、2022 年度第 89 回日本医学会定例評議員会。2022 年 6 月頃、日本医学会分科会活動報告提出〆切。2022 年 6 月頃、2022 年度日本医学会連合定時社員総会。2023 年 4 月 15-23 日、第 31 回日本医学会総会が東京国際フォーラム、東京丸の内・有楽町エリア(<http://isoukai2023.jp/>)で開催されるので、多くの会員の参加をお願いしたいと、報告された。
- ・ 日本医学会用語委員: 金子修理事長より、厚生労働省 国際分類情報管理室に ICD-11 和訳 MMS 版に本学会の意見を提出した。内容については、審議依頼分(7 月 26 日メール)に、「Amoeboma of Intestine」の和訳を「腸管アメーバ症」ではなく「腸管のアメーバ性肉芽腫」を追加したと報告された。
- ・ 史資料委員会: 中澤港委員長より、2021 年 8 月後半、長崎大学熱帯医学研究所熱帯医学ミュージアムで開催されたリンパ系フィラリア症の制圧をめぐる企画、セミナーに協力。同様の企画を、2022 年 2 月に目黒寄生虫館、ソウルの寄生虫博物館で行う予定。リンパ系フィラリア症の制圧をめぐる動画を作成した。今後、公開の予定。また、長崎県の高等学校の先生方とともに、この内容を今後教材化することを計画中。10 月 24 日、31 日に感染症アーカイブズのセミナー開催。資料整理の活動は中断のまま。但し、山梨の日本住血吸虫症、滋賀のマラリアなどに関する資料調査、関係者との意見交換はリモートで継続している。と報告された。
- ・ 男女共同参画委員会: 齊藤(小畑)麻理子委員長より、男女共同参画学協会連絡会への参加(第 19 期総会・第 3 回運営委員会(2021 年 8 月 23 日)、第 19 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム(2021 年 10 月 9 日)への参加の報告があった。今大会における第 8 回 熱帯医学男女共同参画シンポジウム(日本医師会共催)について報告があった。男女共同参画委員の確認(継続・新規)があり、齊藤麻理子(委員長)・金淑恵(副委員長)・狩野繁之・金子修・河津信一郎・小林富美恵・齊藤美加・サトウ恵・沢辺京子・武井弥生・濱野真二郎・平林史子・美田敏宏・モイメンリン氏で委員会を構成するという報告があった。
- ・ 有吉紅也国際委員長より、ICTMM2020 は本年に延期になっていたが、さらに来年に延期され、

2022年10月24-28日(バンコク)になったことが報告された。昨年度第4回理事会で、英国の熱帯医学会とのパートナーシップを結ぶ提案があった件について、合同シンポを組むくらいでよくはないか?との意見があった。

(6) 学生部会報告

- ・ 山城哲学生部会担当理事より、会員数が増えてきた。学生たちがテーマを決め、それを柱として活動している。それぞれのテーマごとに3回から6回、講演会や学生発表を行っている。例えば、国境なき医師団の関係者による講演を依頼したり、今大会で山崎部長がオーガナイザーを務めレクチャーを依頼したりしている。今学会でもシンポジウム「フィリピンにおける狂犬病対策」を開催する予定。山崎梨沙部長から、「日本中どこにいても熱帯医学や国際保健が学べる」「学生勉強会と専門家レクチャーのハイブリッド形式」「質の高い勉強会を目指す」をテーマに活動しているという報告があった。

(7) その他 科研費-国際情報発信強化(B)の交付決定と執行計画について

- ・ 有吉紅也理事より、科研費の交付決定の報告があった。(5年間1,950万円)
- ・ Tropical Medicine and Healthの国際情報発信力を強化する取組として、「アジア地域に特有の疾病や公衆衛生課題に焦点をあてたケーススタディーを定期的に掲載する。」「定期的に文献レビューを行い、アジアで重要な疾患や公衆衛生課題に焦点をあてた総説を連載する。」また、新たな教育資源の構築として、「アジア地域にフォーカスした感染症・熱帯病制御に関わる教科書を刊行する」「アジア地域の感染症・熱帯病.制御に関する理解を深めるための医療専門家向けの日本語と英語のバイリンガル e-ラーニング教育リソースを開発する」という報告があった。
- ・ 編集委員のコアメンバーとして、狩野繁之氏(微生物)・有吉紅也氏(臨床)・橋爪真弘氏(公衆衛生)に決定した。
- ・ 編集の方針として、一般的な熱帯医学の教科書(「e.g.Manson」など)との重複を避け、補足的テキストを目指す。各国で教科書では取り上げられない単体として世界が興味を持つ対策の歴史についても入れる。
- ・ 今後の執行計画について報告があった。2~3年目が最も支出が多くなると考えられるので、残高を繰越す予定である。

【審議事項】

(8) 2021年度決算報告および会計監査報告

- ・ 河津信一郎会計担当理事より、2020年度決算報告が行われ、承認された。
- ・ 会計監査について、狩野繁之監事より報告され、承認された。

(9) 2022年度事業計画・予算案の承認

- ・ 金子修理事長より、2022年度事業計画について提案され、承認された。
- ・ 河津信一郎会計担当理事より、2022年度の予算案について報告され、承認された。

(10) 新編集委員の承認

- 有吉紅也編集担当理事より、内諾いただいた新編集委員 29 名について報告され、承認された。新編集委員：橋爪真弘(東京大学)、高橋謙造(帝京大学)、樋泉道子(長崎大学)、Chris Fook Sheng Ng(東京大学)、Chris Smith(LSHTM, UK)、Krishna C Poudel(University of Massachusetts Amherst, USA)、Mizanur Rahman(一橋大学)、Moi Meng Ling(東京大学)、Shunmay Yeung(LSHTM, UK)、Sittiporn Pattaradilokrat(Chulalongkorn University, Thailand)、Togoobaatar Ganchimeg(筑波大学)、Yu Mon Sow(名古屋大学)、有吉紅也(長崎大学)、石上盛敏(NCGM)、大川純代(NCGM)、大田えりか(聖路加国際大学)、押谷仁(東北大学)、嘉糠 洋陸(東京慈恵会医科大学)、金子修(長崎大学)、河津信一郎(帯広畜産大学)、児玉年央(長崎大学)、齊藤(小畑)麻理子(東北大学)、島川祐輔(Institute Pasteur, France)、鈴木基(国立感染症研究所)、須藤恭子(NCGM)、野中大輔(琉球大学)、野内英樹(結核予防会複十字病院)、我妻ゆき子(筑波大学)
 - 編集委員 29 名中 7 名が日本国際保健医療学会からの推薦である。
 - 有吉紅也編集担当理事より、「一般社団法人日本熱帯医学会の学会誌 Tropical Medicine and Health 誌を一般社団法人日本国際保健医療学会の英文誌として認定することに関する合意書」について提案され、承認された。
- (11) 入退会者承認
- 入会者と退会者がすべて承認された。
- (12) 功労会員候補者の承認
- 評議員に、飯島 渉氏(青山学院大学)、市川智生氏(沖縄国際大学)が推薦され、承認された。
 - 功労会員に、遠藤弘良氏(元東京女子医科大学)と牧純氏(元松山大学大学院)が推薦され、承認された。
- (13) 2023 年度大会の大会長の承認
- 日本国際保健医療学会、日本渡航医学会、国際臨床医学会と合同大会を開催することで合意を得たことが報告された。グローバルヘルス合同大会 2023(仮)
 - 大会長の選定については、金子修理事長と狩野繁之評議員が他学会と調整していくことが報告された。
- (14) 広報・情報担当理事と委員会の設置について
- 金子修理事長より、理事会で、広報・情報委員会の設置と広報・情報担当理事として石上盛敏理事が承認されたと報告があった。
 - 現在は、長崎大学熱帯医学研究所のサーバーを借りているが、今後、学会独自で持つべきかどうかについては、検討事項とする。
 - 金子修理事長より、理事会で「一般社団法人 日本熱帯医学会 広報・情報委員会規程(案)」が承認されたと報告があった。(2021 年 11 月 3 日より施行)
 - 狩野繁之監事より、「広報・情報担当理事どこまで権限を与えるか?」という質問があり、金子修理事長から、今後、広報・情報委員会で議論していくと回答があった。
- (15) 学会員の継続等について

- ・ 2年以上の年会費未払いがあっても、会員としてずっと会費請求を送っており、定款の文章と齟齬がある。今後は、2年目の請求書に、「2年以上を過ぎると自動退会扱い(除名ではない)となる」ことを明記し、そのうえで入金がない場合は、名簿から削除する。その後、熱帯医学会での活動を再度希望される方には、改めて入会してもらうこととする。

(16) その他

- ・ 金子修理事長より、以下の定款の変更を提案され、承認された。

(役員の選任)

第 23 条

(現行)

理事は、評議員の中から別に定める細則により選出された 13 名、及び正会員の中から理事長が理事と協議して選出した 3 名以内、計 16 名以内を、評議員会の決議によって選任する。

(変更後)

理事は、評議員の中から別に定める細則により選出された 16 名を、評議員会の決議によって選任する。

上記の変更に伴い、「理事選挙細則」を以下の通り変更する案が提案され、承認された。

(現行)

5. 選挙の結果次の者を順次当選者とする。
- 3) 得票が同数の場合は若年者順とする。
- 4) 地方区と全国区の両方に当選した場合は、地方区を優先とする。

(変更後)

5. 選挙の結果次の者を順次当選者とする。
- 3) 女性枠から選出される 3 名。
- 4) 得票が同数の場合は若年者順とする。
- 5) 地方区と全国区の両方に当選した場合は、地方区当選を優先し、全国区選挙結果の第 2 位以下のものを順次繰り上げ当選人とする。
- 6) 女性枠に加え、地方区と全国区の両方に当選した場合は、地方区または全国区当選を優先し、女性枠選挙結果の第 2 位以下のものを順次繰り上げ当選人とする。

第 38 条

(現行)

この法人の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を経て、総会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も同様とする。

(変更後)

この法人の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を経て、評議員会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も同様とする。

- ・ 定款第 12 条 (会員総会)

の項目を削除し、

第 14 条「2. 評議員以外の会員も評議員会に出席して、意見を述べることができるが、議決権は持たない。」

を追加する案が提案され、承認された。

- ・
- ・ 上記の変更に伴う細則の変更についても、承認された。

(現行)

理事就任の前年度において満 65 歳に達している評議員は被選挙人としな

(変更後)

理事選挙細則 3-3) 理事就任の前年度において満 65 歳に達している評議員，理事候補辞退者は被選挙人としな

- ・ 学会運営についての申し送りは、資料 20 を確認するよう依頼があった。

閉 会

以上の議事を終え、13 時 15 分に閉会した。上記の決議を明確にするため、議長、議事録署名人 2 名がこれに記名押印する。

以上

2021 年 11 月 4 日

議 長 金子 修 ⑩

議事録署名人 門司 和彦 ⑩

議事録署名人 狩野 繁之 ⑩